

【日本語技術教育学会の沿革と活動内容】

I 本学会の創設

日本語技術教育学会は、1991（平成3）年1月に創設されました。

第1回の創立大会は学習院大学で開催されています。日本の従来の国語教育界に一石を投じるために11名の有志が立ち上がって旗揚げを行ったのです。

なお、創立大会には、250名以上の方の参加が得られました。

初代会長は、学習院大学教授・波多野里望氏でした。

波多野氏里望氏が「大学教師」「法律の研究者」「図書館長」「財団法人の理事長」「国際化の担い手の一人」という経歴を持つ方であったことは、本学会の性格を象徴的に物語っているとと言えます。

本学会の発起人になったのは、以下の諸氏です。（アイウエオ順、肩書きは当時のまま。）

井関義久（横浜国立大学教授）

市毛勝雄（埼玉大学教授）

宇佐美寛（千葉大学教授）

江部 満（国語教育研究所常任理事）

大内善一（秋田大学教授）

大西忠治（都留文科大学教授）

岡本明人（上武大学講師）

渋谷 孝（宮城教育大学教授）

野口芳宏（木更津市立波岡小学校教頭）

波多野里望（学習院大学教授）

向山洋一（大田区立雪谷小学校教諭）

創設に際して、上記の11名の発起人が「A 国語科教育の現状はどう悪いか（現状認識）」「B その現状をどう変革するか（現状認識の戦略・戦術）」という観点から問題提起を行っています。（波多野里望編著『なぜ言語技術教育が必要か』1992年2月、明治図書）

各氏の論考のタイトルは以下のようなものでした。

- ① 波多野里望「一 言語技術教育はなぜ必要か」
- ② 向山洋一「二 言語技術教育から見た教科書批判」
- ③ 市毛勝雄「三 言語技術教育から見た『文学教材』の扱い方」
- ④ 渋谷孝「四 説明的文章新読解能力の育成論—知識の獲得から言語技術操作能力へ—」
- ⑤ 大内善一「言語技術教育からみた作文指導批判」
- ⑥ 野口芳宏「聞く・話すことの言語技術の教育」
- ⑦ 大西忠治「なぜ『読みの力』が国語学力の土台なのか」
- ⑧ 宇佐美寛「引用無きところ印象はびこる」
- ⑨ 井関義久「国語の授業は、なぜ道徳授業になるのか」
- ⑩ 岡本明人「『呼びかけ文』の変遷」

最後の岡本氏による「『呼びかけ文』の変遷」には、「日本言語技術教育学会」創立に向けて、発起人全員によって「呼びかけ文」を起草するまでの議論の経緯が詳細に報告されています。

こうした議論の様子に、国語教育の現状を改革するための新しい学会の誕生が窺えます。

II 本学会の歩み

第1回創立大会 1992年1月26日、学習院大学で開催。テーマ「なぜ言語技術教育が必要か」

第2回大会 1993年3月27日、学習院大学で開催。テーマ「言語技術教育の教材をどうつくるか」

第3回大会 1994年3月26日、学習院大学で開催。テーマ「言語技術教育の観点から新教科書を点検する」

第4回大会 1995年3月26日、学習院大学で開催。テーマ「文学教材の授業でどんな言語技術を身につけさせるか」

第5回大会 1996年3月24日、学習院大学で開催。テーマ「説明的文章を使ってどんな言語技術を身につけさせるか」

第6回大会 1997年3月23日、学習院大学で開催。テーマ「論理的思考力を鍛える」

第7回大会 1998年3月22日、学習院大学で開催。テーマ「討論の授業がどんな言語技術を身につけさせるか」

第8回大会 1999年3月22日、早稲田大学で開催。テーマ「音声言語指導による『伝え合う力』の育成」

第9回大会 2000年3月20日、早稲田大学で開催。テーマ「総合的な学習を支える言語技術とは何か」

第10回大会 2001年3月18日、早稲田大学で開催。テーマ「総合的な学習と『読み・書き』の技術」

第11回大会（新潟大会） 2002年3月24日、新潟市ユニゾンプラザで開催。テーマ「到達度・接待評価の基準としての言語技術」

第12回大会（名古屋大会） 2003年2月23日、名古屋国際会議場・レセプションホールで開催。テーマ「『絶対評価』で問われる基礎学力の保障と結果責任—評価基準としての言語技術—」

第13回大会（札幌大会） 2004年7月30日、北海道札幌コンベンションセンター・大ホールで開催。テーマ「二一世紀に求められる言語技術とは何か—国語学力の基礎・基本を解明する—」

第14回大会（東京大会） 2005年3月26日、早稲田大学・国際会議場で開催。テーマ「『この言語技術』を『この授業』で身につける」

第15回大会（大阪大会） 2006年3月4日、毎日新聞・オーバルホールで開催。

テーマ「『読解力の低下』問題と国語科の授業改革—言語技術教育はどう応えるか—」

第16回大会（岡山大会） 2007年3月3日，岡山大学創立50周年記念館で開催。テーマ「国語学力を育てる言語技術教育—『読解力』の構想を問う—」

第17回大会（静岡大会） 2008年3月1日，常葉学園大学・たちばなホールで開催。テーマ「論理的な『言語力』を育てる国語科の授業—『新学習指導要領（案）』の検討—」

第18回大会（新潟大会） 2009年3月7日，新潟大学教育学部附属小学校で開催。テーマ「『伝統的な言語文化』を活かす言語技術」

第19回大会（千葉大会） 2010年3月6日，千葉・高浜第一小学校で開催。テーマ「『伝統的な言語文化』を深める授業力—あなたの言語能力で子どもが育つ—」

第20回大会（京都大会） 2011年3月5日，京都女子大学附属小学校で開催。テーマ「『この言語技術』で思考力・表現力が高まる」

第21回大会（東京大会） 2012年3月3日，学習院女子大学・やわらぎホールで開催。テーマ「新教材・伝統的な言語文化をどう授業化するか」

第22回大会（名古屋大会） 2013年3月2日，名古屋市「ウィンクあいち」で開催。テーマ「単元を貫く言語技術を解明する」

第23回大会（静岡大会） 2014年3月1日，常葉大学静岡キャンパスで開催。テーマ「言語技術が見える授業づくり—学力向上に役立つ言語技術—」

第24回大会（京都大会） 2014年8月11日，立命館大学衣笠キャンパスで開催。テーマ「『文学教材の授業で身につけさせる言語技術』とは何か—『ごんぎつね』を例に—」

第25回大会（茨城大会） 2015年7月19日，茨城キリスト教大学で開催。テーマ「言語技術が見える授業づくり—『大造じいさんとがん』『和の文化を受けつぐ—和菓子やさぐる—』で身につけさせる言語技術—」

第26回大会（東京大会） 2016年8月6日，法政大学市ヶ谷キャンパスで開催。テーマ「言語技術が見える授業づくり—『ごんぎつね』『天気を予想する』で身につけさせる言語技術—」

Ⅲ 本学会の活動

本学会の「会則」の「第三章 事業」に活動内容の骨子が以下のように定められています。

- ① 国語科教育の理論と実践の現状分析にともなう改革運動の推進と提言
- ② 会員の言語技術教育の創造にともなう理論と実践の研究・交流の促進と援助
- ③ 機関誌『言語技術教育』その他の刊行
- ④ 年次研究大会「日本言語技術教育学会大会」および研究集会の開催
- ⑤ 内外における関係研究団体との連絡・提携
- ⑥ 前条の目的にそったその他の事業

以上の活動内容の一層の充実・深化を図るべく、会員の日常の研究・実践活動は、各支部において継続して取り組まれています。

本学会のホームページから各支部のページに入り、その活動内容をお読み頂くことをお勧めします。

そして、お近くの支部へ入会して日常の活動に取り組んでいかれることをお勧めします。

(文責：第3代会長 大内善一)